令和6年度
学校関係者評価　報告書

学校法人　岡崎学園
東朋高等専修学校

1．目　的

関係業界、卒業生、地域住民等の学校関係者から委員を選任し、令和5年度の学校業務について、学校が自ら行った自己点検・自己評価結果の報告及び改善方策についての評価を受けることを目的とする。

2. 評価項目

評価項目は次による。

・ 自己評価の結果の内容が適切かどうか
・ 自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
・ 学校の重点目標や自己評価の評価項目等が適切かどうか
・ 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか

3. 評価要領

令和6年6月10日（月）に実施した学校関係者評価委員会において、自己点検・自己評価報告書の内容を報告し、それぞれの項目における意見聴取及び評価を受けた。評価委員からいただいた主な意見等について、それぞれの項目に記載する。

4. 出席状況

出席　計13名

【学校関係者委員】計6名

・ 矢内　昭秀　氏（大阪ダイハツ販売株式会社）
・ 車谷　知紀　氏（竹菱自動車販売株式会社）
・ 奥田　恵造　氏（関西大学　職員）
・ 三浦　哉子　氏（学びリンク株式会社）
・ 大矢　敬道　氏（黒田寺　副住職）
・ 佐々木　大介　氏（正定寺　住職）

【説明者】計7名　※令和5年度の役職に基づき説明者を決定

・ 岡﨑　泰道（㈻岡崎学園　理事長）
・ 太田　功二（東朋学園高等学校　前校長・東朋高等専修学校　校長）
・ 中田　博隆（大阪自動車整備専門学校　校長）
・ 永田　淳義（東朋学園高等学校　前教頭）
・ 船井　英伸（東朋高等専修学校　普通科　前教頭）
・ 山田　晃子（東朋高等専修学校　総合教育学科　教頭）
・ 勝間　祥子（㈻岡崎学園　法人本部　事務局）

欠席　計1名
【学校関係者委員】
・　東本　秀雄　氏（町会長）

5. 自己点検・自己評価概要および評価委員の意見
(1) 理念とミッション
・不登校や発達障がいなど、さまざまな課題を持つ子供が増えていると聞く。そういった子供が教育を受けられる環境を作り上げてきたことはとても素晴らしいと思う。今後も、多様な課題を持つ子供が安心して進学できる学校として、教員の指導能力向上のための研修の機会を増やすなどの工夫も考えていただきたい。
・生徒が増えてきているため、今後の対応についてどのように考えているのか知りたい（委員会内で説明。内容は議事録のとおり）

(2) アドミッションポリシー（入学者受け入れの方針）
・自己点検、自己評価報告書にあるアドミッションポリシーに関しては、募集パンフレットにも記載があり、入学希望者へも分かりやすく提示されてると思われる。

(3) 入学者選抜の方法
・学校の特徴から、生徒の家庭とのつながりも深くなると思われるので、保護者同伴の面接はお互いの理解を深める点で良い取り組みだと思われる。
特に総合教育学科は全入学希望者を保護者同伴で個別面接しているので、教職員の方々の大変なご苦労があるかと思われるが、保護者の立場で考えると子供が入学してからも安心されるのではないか。
準備など大変であろうかと思うが、今後も継続すべきだと考える。

(4) 生徒募集の方法
・オープンスクールでは毎年たくさんの申込があるということで、体験実習の内容もいろいろと工夫されているように聞いている。入学希望者も増えているという事なので今の取り組みを継続して行うことが基本かと考えられる。広告媒体等に関しては、即効性があるものではないので非常に難しいと思われるが、できるだけ効果の検証を行い、効率的に行わなければならないと考える。今後もこういった機会により良い広報ができるように検討を重ねていただきたい。

(5) カリキュラムポリシー
・高等専修学校であるからこその授業の組み立てができるため、その利点を最大限に活かしたカリキュラム設定を期待したい。やりたいことを選択させることにより、

自身を考えるきっかけとなり、またそれをやっていくことで、それができることに変わっていくという流れができていると思われる。

(6)カリキュラムの内容

・学科によって在籍する生徒の特長や目的が整理されており、それらの生徒が興味を引く内容になっていると思われる。

・内容を見ると、コースによって学習の系統が分けられ、本人の意思だけに偏らず、カリキュラムとして整理されている。やりたい事だけにならず、必要な事としての視点も盛り込まれていて、そこに良さがあると思われる。

(7)成績評価・単位認定

・成績評価の基準はそれぞれの学科違うと思われるが、その基準を教員が十分理解したうえで判断すべきである。

(8)学生の支援

・学校独自の制度で対応していくのは大変であると思われるが、経済的な理由だけで学業をあきらめることの無いよう、できるだけの対応は今後も継続していくべきだと考える。

・資格取得について、何かの目標に向かって努力することは成長の一環となり得るので、良い取組みであると同時に、学校のサポートもあり今後も継続してもらいたい。ただ、取得を目指す資格の種類は一定期間で見直すなどの検討は必要である。

・生徒の進路決定は大きな課題と言える。その中で、就労移行支援事業所や自立訓練事業所の設置は高等専修学校に通う3年間だけでなく、将来を見据えた支援への取組として大きな一歩であると言える。卒業時の進路未決定者を減らし、一人でも多くの生徒が自立した生活を送っていけるよう、総合的な支援ができる学校を目指してほしい。

(9)教員の確保

・常勤の教諭に関しては、支援が必要な生徒に対する知識等も持ち合わせていると思われるが、非常勤の講師も多いため非常勤講師向けの研修など、全体で指導力を高めるための取組があっても良いと思われる。

(10)学習環境

・学外実習は普段と違う環境に身を置くことで得られるものもあることから、生徒にとって貴重な経験になる。教員においてもそういった環境での生徒の成長を把握

する機会になると思われる。
・学校等の防災体制の充実は必要不可欠なものである。日頃から教職員の安全意識の向上や施設・設備等の管理において体制を整え、災害発生時には生徒の安全を第一に確保し、迅速に対応できるようにしておかなければならない。

(11)財務
・行事等も多いため、予算管理を詳細に行っていく必要がある。教育効果と経費のバランスを確認しながら予算案検討するなど、数年に一度、すべてを見直し、検討する機会を設けても良いのではないか。
法人全体においてもしっかりとした管理を行っていく必要がある。

(12)法令等の遵守
・法令等の遵守は専修学校として運営するうえで避けられないものであるので、引き続き適正な運営ができるよう、努めていただきたい。

(13)自己点検・自己評価、学校関係者評価、外部評価
・自己点検・自己評価において、アンケートの結果から概ね適切に実施されていると思われる。評価項目も教育内容から運営において網羅されており、適切だと考える。こういった外部の意見はどこまで参考になるか分からない部分はあるが、より良い教育活動を行うための参考になれば幸いである。
・自己点検・自己評価により課題となった事項は、全教職員がお互いの立場から検討し、その結果を持ち寄って学校としてどうするのが適切なのかを調整いただき、より健全な学校運営に努めていただきたい。